

定刊 弧光



2012年12月14日

おもえば年始から神経を擦り切らす日々が続いた、と振り返ります。運営にたずさわる障害者・介助スタッフだけでなく、親元から出て地域で暮らしはじめた一年目の介助利用障害者、そんな人たちが団体を去ることを幾度となく経験しました。

原因は何だったでしょう。さまざまなことが思い浮かび、浮かんでは消えていくのです。しかし、わたしは、決まってこのような事態のときにすることがあります。それは「自分が自分にできることは何か？」を考えることです。親元から地域で生活をはじめて来年で8年目になります。地域での生活を分岐点にそれまでの人生とそのあとの人生があるとすれば、生活の主体者となる・介助者を使う・自立生活センターでの運営者たる障害当事者(自分の生活体験、生活経験を声に出して人に伝え、現在起こっている問題を共有しつつ解決に取り組む人々を指す)として生きる、そのことが大事でした。いまでもそうです。ただもし、これからの自分にかけてあげる言葉があるとすれば「それを正しい」と思うことは「こうあるべき」とイコールではないんだよ、そのことについてです。

ある意味、自立生活運動をする障害者が陥ったパターンでしょうか。ある状況に直面すると「こうでなければいけない」と内面化してしまった行動があって、たとえば指示介助ひとつとっても、すべての生活部面にわたって障害者の指示による介助者の行動が介助なのだと思えていけば、障害者の生活は息をもつかぬ日々の繰り返し、介助者からすれば個性も特技も生かされきれないマニュアル(障害者の指示)ありのルーティンワークになる場合があります。ましてや、介助者の人数だけ個性は千差万別でしょう。自分の主体的な生活に他人の個性が生かされたら主体性は維持されるのか？そういった恐怖心を少なくとも持ち合わせていますから、指示で個性を打ち消すことはまああることだと思えます。

こうした背景がありながらの障害当事者として、自立支援する障害者に向き合ってきたつもりでした。こうした背景がありながらの障害者として、自立支援する介助者に向き合ってきたつもりでした。けれども、伝えきれてないことの方が多かったかも知れません。

自立生活センターの権利擁護活動が目指すもの、障害者を社会の主体者として介助という名のもとで尊重することを手がかりに、この社会に生きるすべての人が尊重される社会を作ることがあります。この理念を「正しい」と思った人が団体に集まるのです。だからこそ、その方法は「こうあるべき」では困ります。それが自分の生活体験・生活経験や個性・特技に裏付けられた多様な方法にもとづいた、正しさに向かう行動ならば「こうあるべき」という観念から解放される日は近いのではないのでしょうか。

自分自身が手放して良いと思うこと。それは、正しいと信じることを「こうあるべき」という捉われた方法だけで行動しない・させないことです。今後、このことをどのように伝えることができるか、を考えることです。内緒ですが、わたしの意識した姿勢に、無意識で答えてくれた女性コーディネーター、一人ひとりの女性介助者の行動力が眩しく映ったのは「自分を変える、社会を変える」という考え方に根ざしたものに違いありません。

【文：岡田健司】

事業報告

日々是研修

防災ワークショップ

～防災教育・訓練編～

CILアークスペクトラムでは職員向けに介助心得の習得や介助技術の向上を目的とした研修を行なっています。このページでは今年度より集中的に行なわれている防災ワークショップの様子をお伝えします。

＜アクスペの防災教育・防災訓練ってな～に？＞

アクスペでは昨年度の災害時緊急対応ワークショップに引き続き、今年度より年に4回（防災計画→訓練実行→見直し→改善）のサイクルで、集中的に防災に対する取り組みを始めました。私たちができる最大の権利擁護である人命を守るために、何ができるのでしょうか？そして災害時に共に生き抜くために何が必要とされるのでしょうか。

＜災害時におけるアクスペの行動指針＞

いざ災害が起こった時私たちはどのように行動すればいいのでしょうか。それぞれの職員の命を守ることと団体活動の早期復旧の為に皆で話しあった結果、アクスペでは以下の様な行動指針を定めました。そして災害時にはどの様な方法で連絡をとり、安否確認を行なうのでしょうか？あらかじめ知っておくことで、より災害時の混乱状況において冷静な行動判断を促し、避難や復旧時のロスを少なくすることに役立ちます。

かいじりようしょうがいしゃ 介助利用障害者	かいじょしょくいん 介助職員
<p>避難計画 みもと さいせい ひなん しがた ひなんさきけつてい 身元カード作成・避難の仕方・避難先決定</p> <p>避難経路 たてもない ろうか かいだんりよう ぼうぼう きげん 建物内の廊下・階段利用の方法・危険なガラス・ がいき き さいかいはみち かくにん 外壁を避けられる道の確認</p> <p>避難判断 ひなんくいきがい ひと う い こんなん ばあい 避難区域外の人は受け入れ困難な場合もある</p> <p>安否確認 けいたい さいがいでんごんばん りよう 携帯の災害伝言板を利用</p>	<p>避難計画 みもとかくにん さいせい かいじりようしょうがいしゃ ひなん 身元確認カード作成・介助利用障害者と避難</p> <p>避難経路 かいじりようしょうがいしゃ ひなんけいこう ほんだん じゅん 介助利用障害者の避難計画・判断に準じる</p> <p>避難判断 かいじりようしょうがいしゃ つね かくにん 介助利用障害者と常に確認する</p> <p>安否確認 けいたい さいがいでんごんばん りよう 携帯・スマホの災害伝言板を利用</p>

きんむがいしょくいん しむしょくいん
勤務外職員・事務職員

ひなんけいこう
避難経路

ひさいじょうほうかくにんご していきまてん
被災情報確認後、指定拠点へ

ひなんはんだん
避難判断

さいがいたいさくほんぶ しき めいれい
災害対策本部の指揮を命令受ける

＜新たな取り組み～防災バッグ配布～＞

避難先の決定・避難の仕方を全職員で確認したあと、介助利用障害者には防災バッグが配られ、介助職員には帰宅困難者用防災バッグが各自にひとつずつ配布されました。災害時には一体どのような物資が求められるのでしょうか？ W S 参加者全員で実際にバッグをひも解いていきました。実際の避難時に頼みの綱となるバッグの中の物資を参加者達は、真剣な眼差しで一つ一つを丁寧に確認していきました。

なんとグッズは46種類！手巻き発電で携帯充電も



介助利用障害者用防災バッグ

介助職員用防災バッグ

持ち運びやすく、ハンズフリーなウエストポーチ型



サランラップは怪我をした時（擦り傷など）にも使えますね

＜新たな取り組み～身元確認カード～＞

そしてこの防災バッグを最大限活かす為、個人的に必要な物資を追加することや、自宅にいる時は持ち出しやすいように自分で確認できる位置に保管しておくなど、工夫して使用することを確認しました。また、実際の災害時には怪我をしまったり、二次災害などにより混乱した状況も考えられます。そのような状況の中で必要な機関や相手に対して、自分自身のことをより伝えやすくするために、各自の防災バッグに自分の身元や職場、かかりつけの病院・薬などが一目でわかる「身元確認カード」を作成し、各自防災バッグに付け加えました。



身元確認カード ※「さくら会」「横浜市住宅供給公社」の方々の資料を使わせていただきました。

<介助利用障害者と一緒に避難をしてみよう！>

防災教育で学んだことを意識において、実際にアークスペの介助利用障害者の自宅から避難場所まで避難シミュレーションをおこないました。

そして、模擬避難に際して参加者達は、各自防災訓練ワークシートを作成しました。その中には避難場所までの距離や時間、経路など、現実には災害が起きていると想定して、避難時に何人の介助職員がいた方が良いか？また自宅のエレベーターや車いすが使えない状況と仮定した避難シミュレーションをおこない、実際に非常階段を使用してみると、大人1人が通れる程度のスペースしかなく、どの様に非常階段を工夫して使うかなど、皆で意見やアイデアを出し合いました。そして屋外の避難先に向かう迄の道のりの中、途中で危険な外壁やガラス窓などの通行障害を出来るだけ意識しての避難シミュレーションとなりました。



せま
狭いっ。介助者は
何人必要？



介助者の荷手がフリーに
なる移乗補助具は？
登山用ハーネスはどう？



<避難場所までの危険なポイント>

実際に避難シミュレーションをおこなって来たことによって、避難場所までの道のりでビルのガラス窓や街路樹・地盤沈下や古い家屋の倒壊など、通行時の危険個所の可能性を予測することができました。それぞれの職員も自宅や職場から安全な道で避難場所まで移動するにあたり、どの様な点に気をつければよいのか、普段から通る道でも災害時に通る道として適切かどうかを考えるきっかけとなりました。

ビル外壁や窓ガラス。
電線に注意！

<防災会議>

そして11月にはアークスペ防災会議をおこないました。東北の被災地にある団体へ実際に赴き、災害対策の話聞いてきたアークスペの代表により、今後のアークスペ防災対策に提案がありました。まず災害時の対策本部を設置し、管理者を置いて非常時用の備蓄物資が行きわたる様に準備しておくことや、災害時は機械類に頼るのではなく、安否確認は物資を届ける際などになるべく直接会いに行った方がよいとの話がありました。そして、対策本部以外の場所にも介助職員やボランティアスタッフが寝泊まりできる避難拠点を分散して設けることや、3ヶ月分の緊急時用の物資・発電機を保管する倉庫を用意しておくなど、今後の防災に向けた取り組みに関する話が満載でした。

また、会議で災害時の行動をイラストにまとめた「災害時つながりマップ」を作成しました。事務所に貼っておき、それぞれの職員がパッと見てわかる災害時におけるアークスペ全体の行動を参加者皆で描きました。



<防災ワークショップを受けてみて>

今回のワークショップの時間を通して、災害時に必要な物品の準備・適切な避難経路の選択、携帯電話やスマートフォンの災害対策伝言板を利用した安否確認など、介助利用障害者・職員共に無事に合流できるために必要な事柄を共有できたとても貴重な時間となりました。

体験型の避難シミュレーションでは、実際に自宅から避難場所まで避難してみることで、避難経路上の問題点や必要な備えなど、視点を変えて街を歩くことで、より安全に避難する為の新たな気づきが沢山あったと思います。

そしてそれぞれの職員の数だけ防災計画があり、個々で防災に対する意識を高めていくことと、団体全体の災害時行動を知っておくことが大切だと感じました。

まず、生き残ることが最優先にあり、団体機能の早期復旧、災害時の助け合いの仕組みを通して、何よりも大切な命を守る為に日常からの避難の見直し改善に取り組み、より良い防災対策を作っていくことは、アークスペや私達にとってとても価値のあることであると感じました。

【文：青木学】



- ◆ このページではアークスペクトラムで働く介助者のコメントを載せています。 ◆
- ◆ アクスペ介助者の仕事への思い、普段の過ごし方などをご覧いただければと思います。 ◆

池上 優季 Ikegami Yuki



はじめまして、池上優季です。私が今はまっていることは中国語と韓国語です。中国語は以前から中国武術と薬膳に興味を持っていたこと、そして韓国語は今年の夏に韓国へ観光に行ったことがきっかけで始めてみました。中国語と韓国語を学んでいると、先生や仲間の学習への姿勢や努力・情熱に感動させられます。私は食べることが好きなので、中国料理や韓国料理を教えてもらったりもできてとても楽しいです。言葉以外にも食べ物や文化・風習など、その国のことを知るの面白いです。皆さんも中国や韓国・その他の国でもOKなので興味深い話があれば何でも教えてください。

川村 佐恵子 Kawamura saeko



月日が過ぎるのは早いもので来年の1月で就業して2年になります。日頃はコーディネーターとして介助に入ることがありますが、最近では障害者役員とともに、自立支援の全体像をより深く学んでいます。趣味は100円均一巡りで、暮らしやすい快適な部屋づくりに並々ならぬ情熱を注いでいます。

田原 えりか Tahara Erika



田原えりかです。介助歴は1年くらいです。まだまだ介護の知識は少ないですが、この1年を通して他の職員の方たちから学んで来た事や、実践を通してやって来た事を存分に生かせるよう日々頑張っています。まだまだ未熟ですが、ここで自分の持っている力を発揮出来たらなと思います。最近私の仲間内でボーリングをしたんです。元はかなり下手なんです。ストライクが一回だけ出て凄く嬉しかったです。学生の頃スポーツをやっていたので、体力と運動神経は体の割に良い方です。後は主に家でまったりDVDなどを観ながらゴロゴロするのが大好きです(笑)

戸川 瑞貴 Togawa Mizuki



はじめまして。戸川瑞貴です。京都出身京都市で、龍谷大学短期大学部2回生の現在20歳です。大学では社会福祉を学んでいます。趣味はDVD鑑賞で、好きな映画はシャーロックホームズです。ホームズ役のロバートダウニーJr.がガンディすぎます！アクションももちろんすごいですが、ユーモアもありシャーロックホームズを知らない人でも楽しめると思います。おすすめの映画があればぜひ教えてほしいです。最近卒業論文と戦っています。また料理の勉強をしたいです。まだまだ未熟ですが、これからよろしくお願ひします。



のぶかわ しゅう
信川 秀宇 Nobukawa Shu

今年も終わりに近づきひんやりしてきましたね。アクスペの介助者としております信川秀宇です。今日は最近の自分について自由に書く事を許されたので、少しお付き合いをお願いします。2012年10月20日に結婚をさせて頂きまして、京都は北山と言う場所です。結婚式を挙げました。色々な方にお祝いして頂き感謝、感謝の思い出深い一年になりました。今後はこの仕事を通して、人として更に成長できれば！！と企んでいます。アクスペを含めこの職は奥が深い。学ぶ事を求めれば、様々な視点があるので楽しみつつ努力したいと思っております。皆様、今後ともよろしくお願い致します！！



もり かずひろ
森 一裕 Mori Kazuhiro

皆さんはじめまして、私は森一裕といいます。歳は29歳で団体に入ってそろそろ2年半になります。趣味は読書、種類としては小説がメインですが本は基本的には何でも読みます。仕事では最近壁らしいものに直面する機会が多々あります。これからアクスペで働いていく中で今目の前にある壁はいずれ越えなければならない壁だと実感させられる時が多いです。なので最近では少しでも早く自分の為、そして団体の力になれるようにとステップアップに努める日々です。



やまうち えりこ
山内 恵理子 Yamauchi Eriko

新人介助者の山内恵理子です。年齢は23歳で、アクスペにはいって約2ヶ月になります。最近では初めて迎える京都の冬に備えるべく、暖かくて可愛いコートを探すのに夢中です。このお仕事をやるにあたり、相手の立場になって考えるということ、自分からオープンになる、という2つを念頭に置いて働きたいと思っています。早く障害者の方と信頼関係を築けるよう、一日一日を大切に努力していきますので、よろしくお願い致します。



やまだ けんすけ
山田 健介 Yamada Kensuke

こんにちは。最近ますます寒くなりましたね。皆さんいかがお過ごしでしょうか。僕は最近吉本新喜劇にはまっています。観ると爆笑するのでストレスが全解消されるんです。「おい、お前なんで食い逃げなんかしよ思ったんや！」「ほんますいません！三日間ごはん食べてなかったんです！許してください！」「おーなんや、そうやったんかいな…」「パン食べてましてん…」個人的にはツボでした(笑)



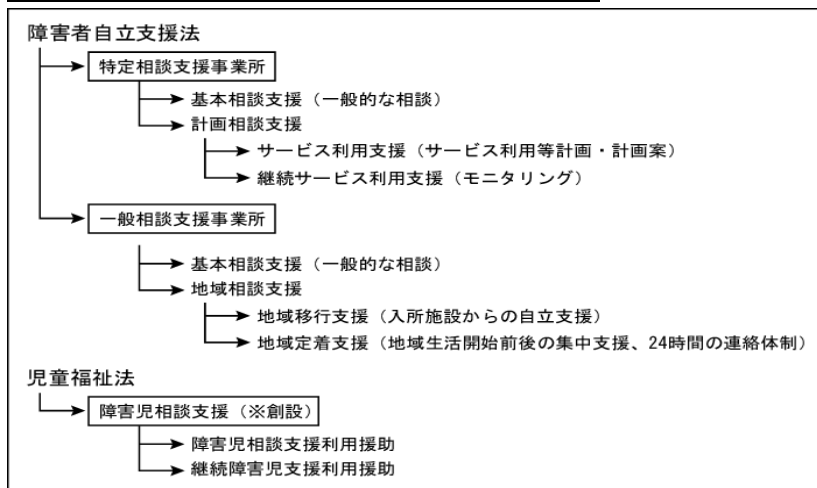
やなぎもと
柳本 ひかり Yanagimoto Hikari

私は柳本ひかりといいます。北海道の田舎から来ました。夜な夜なママチャリで徘徊しています(笑)
介助歴は約1年となりました。最初は分からないことだらけで戸惑いを感じ、自分には向いていないのかも...と思ったこともありました。ですが、人と向き合うことで続けてこれました。この仕事で人と人が向き合い、思いやり、気持ちを汲む、たくさんの大事なことを学んだ1年だったなと思います。これからもっとたくさんのことを学び、視野を広げ、微力ながらもこの社会が変わるように頑張りたいなと思っています。

計画相談支援と地域相談支援はじまる

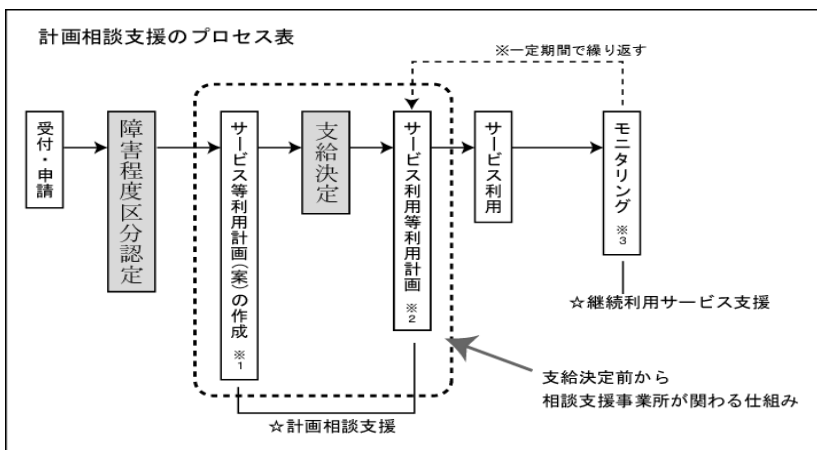
2012年4月、自立支援法の制度改正により相談支援事業の見直し強化がされ、新たな事業もはじまりました。まだはじまっていない自治体もありますが、向こう3年かけて実施されていきます。ここではその新しい制度を紹介したいと思います。

◇計画相談支援と地域相談支援の一覧表



◇計画相談支援（特定相談支援事業）とは

上の一覧表の上段にあるものです。支給決定にまつわるプロセス表を見ながら解説していきます。



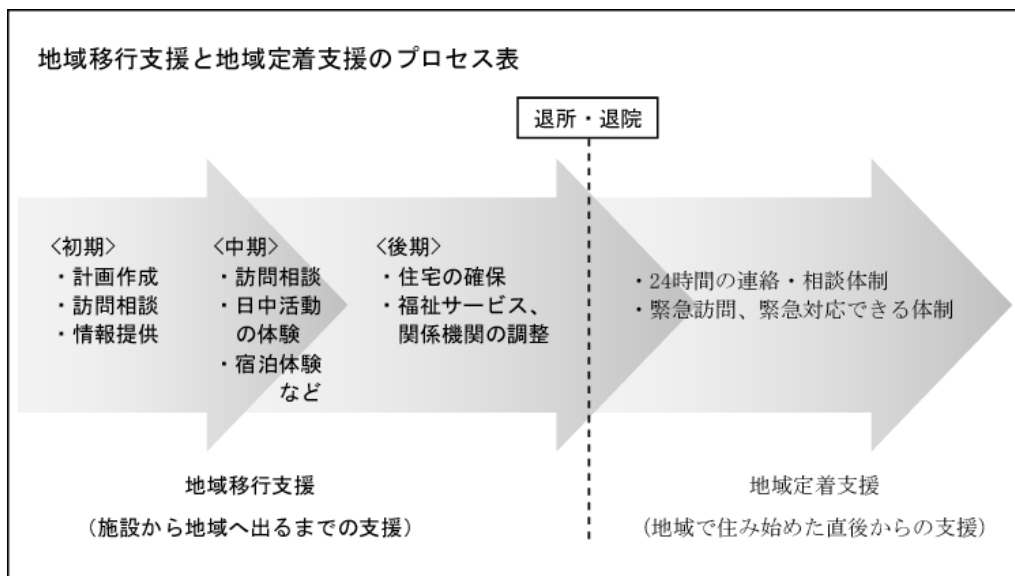
「サービス利用支援」とは、ヘルパー時間数など福祉サービスの支給決定の際に、相談支援事業所の相談支援専門員が **※1 サービス利用計画（案）** を作り、そのサービス利用計画（案）を参考に支給決定するという仕組みです。また支給決定後、実際にサービス利用の前に **※2 サービス利用計画** を作って利用調整をし、サービス利用がはじまっていきます。

「継続サービス利用支援」とは、相談支援専門員が障害者本人を訪問して現在使っている福祉サービスが機能しているか適切かどうかを **※3 モニタリング（検証）** し、より機能するものへ変更を行っていくものです。また、利用サービスを変更する度にモニタリングが必要になります。

そしてどの相談支援においても、相談支援専門員が障害者の住居や入所先へ訪問して **アセスメント（客観的評価）** を行い、障害者の心身の状況や置かれている状況、解決すべき課題をモニタリングし、実際のサービス利用計画に結びつけていくという特徴があります。この仕組みにより障害者やヘルパー事業所と利害関係の無い第三者が関わり、客観的な視点を加えて必要な福祉サービスの支給決定をしていくという路線がしっかりできるようになります。また、第三者となれる相談支援専門員にも、要件が幾つかあり、特にヘルパー事業所のヘルパーとの兼務ができない（県により違いあり）事になっており、**中立・公正という観点**が強調されています。

◇地域相談支援（一般相談支援）とは

冒頭の一覧表の中段にあるものです。地域移行のプロセス表と照らし合わせながら解説していきます。



「地域移行支援」とは、施設や病院からの地域移行の支援です。相談支援事業所が地域移行支援計画を作り、移行に向けたプログラムを展開していく事ができます。

移行支援初期には、相談支援専門員が障害者の入所先へ訪問、アセスメントを行い本人のニーズを明確にしながらか地域移行計画を作成していきます。移行支援中期には、実際の生活を想定した日中活動の体験や宿泊体験を進めていきます。ちょうど自立生活センターが提供している自立生活プログラム（ILP）で生活のノウハウを学んでいくようなイメージで進め、移行支援後期には住宅探し介助体制の確立、関係各所の調整をしたのち地域生活のスタートを迎えます。

「地域定着支援」とは、地域に暮らし始めてから、まさにその地域に定着する為の支援です。地域生活を始めたばかりはトラブルも頻発する為、相談支援専門員や介助者が緊急で訪問してトラブル解消に努めたりする必要があるので、24時間の相談体制が欠かせません。

これらの地域移行支援の形は、今まで自立生活センターが手弁当でやってきた地域移行の取り組みが制度化されたものです。地域移行には多額の費用も必要なので、どのセンターも苦勞しながらやってきました。それが制度化された事により少額でも費用をまかなう事ができ、人材も多く掛けられる為、今まで後回しにされがちだった重度障害者の地域移行を進めて行く事ができます。

今回の制度改革による相談支援の充実強化の最大のポイントは、第三者の公正・公平な視点というところだと思えます。単なる第三者という点には大きな期待も大きな不安も感じています。なぜなら、教科書通りや額面通りに受け止めては、障害者のニーズは決して分からないからです。

公正・公平という概念は、障害者が困っていること／生き辛さを感じていること／本来の力を発揮できずにいる要因／支援の在り方など、障害をもつがゆえに出来ない事を踏まえ、きちんと底上げした上で使われるべきであり、ただ今の社会一般的という観点だけで公正・公平だからと進めて行けば制度は形骸化され、障害者は制度に振り回される結果になります。

全ての障害者が地域で暮らしていくには、私たち自立生活センターだけでは到底足りず、どの地域のどの事業所でも十分な支援ができる必要があります。その為に私たち自立生活センターが持つ当事者性をどのように発揮させていくかが問われてくると思えます。地域生活の一番の専門家は障害当事者であるという事を十分に踏まえて、どう社会に働きかけていくかが、この制度の在り方を左右していくのだという事を肝に銘じていきたいと思えます。

【文：加古雄一】



アクスペ体力測定会 開催！！

2012年7月13日に「アクスペ体力測定会」という企画を京都市右京区の『ハンナリーズアリーナ』という体育館で開催しました。この企画は楽しく体を動かして親睦を深める為に生まれました。しかし介助者がただスポーツをするだけの行事ではありません。介助利用障害者も一緒に楽しめるように工夫してあるのがアクスペ流です。それではアクスペの体力測定会の様子をご紹介します。参加者は介助利用障害者3名、介助者が9名の12名でした。3チームに分かれ、それぞれ介助利用障害者がチームリーダーとなります。

○ 準備運動

まずは準備運動です！準備運動といえば、もちろん、ラジオ体操！ラジオ体操は十数年ぶり、という人も居て、少し懐かしい気持ちになりつつ、でも真剣に体操しました。



○ 第1種目 異種スポーツリレー

〈第1走者〉バスケットのドリブル（途中で2回股を通す）をしてシュート→〈第2走者〉フットサルのジグザグドリブル→〈第3走者〉フットサルのドリブル（途中で5回リフティング）をしてシュートして決まったらゴール。チームリーダーが自分のチームのタイムを予想、一番近いチームが1位。※バスケットのシュート・リフティングが難しく、ここでタイムロスする人続出！ちなみに一番タイムロスになる最後のフットサルのシュートを外してしまう人も何人か。普通のサッカーボールより小さいので蹴るのが難しいです。

○ 第2種目 バasketボール（3on3）

3人对3人、半コートを使ってのBasketボールです。3チーム総当たり戦。※なかなかシュートが入りませんでした。それはみんな守備を頑張ったんです！3試合ともかなり白熱した試合となり、2種目にしてすでにみんな汗だくでした。



だい しゅもく おに
○ 第3種目 鬼ごっこ

ふつうにおに鬼ごっこをして、最後まで鬼に捕まらなかった3人をリーダーが予想する。予想する3人を自分のチームにするも、3チームバランスよく予想するもあり。
※鬼ごっこ、地味にハードです。子どもの頃はあんなに走れたのに…大人になるとあんまり全力で走る機会がないですね。



でい-れす-ー おんがく ねっせん も あ
DJが音楽で熱戦を盛り上げます！



だい しゅもく
○ 第4種目 ものまねクイズ

チームの代表者ひとりがものまねをし、それをチームのメンバーが当てる。チームごとの正解数で競う。

※体力関係ない？いえいえ、昼食を食べてすぐなのでこういうまったりしたものも必要です。ものまねは定番の猪木や流行りのスギちゃん、様々な動物や、時には金閣寺などの難問も。恥ずかしがりながらも一生懸命ものまねする姿に自然と笑いが生まれました！

だい しゅもく
○ 第5種目 キックターゲット

フットサルのゴールを右上・右下・左上・左下の4つに区切り、リーダーが指定した場所に蹴る。指定した場所以外に蹴っても失敗。

※やっぱりフットサルのボールは軽くて、コントロールが難しい。指定された場所が上の2つ場合はさらに難易度アップ！リーダーからの期待に答える為に一球入魂でみんな蹴りました。気合が入りすぎて、観客席まで蹴っちゃう人もいました。



つか 疲れた. . . すこ 少しいちゆう 休憩中

○ 第6種目 フットサル

3対3のフットサルです。総当たり戦の勝ち負けで順位を決めます。

※ついに最終戦。みんな最後の力を振り絞り、大接戦となりました。みんなかなり熱くなりました。フットサルを初めてする人もいて、経験者から説明を受けて、最後にはアシストを決めるまでになりました。



今回の体力測定会という楽しい行事を紹介することができ、大変嬉しく思います。このような行事を行うことにもちゃんとした運動としての意味があります。楽しい行事の場に健常者である介助者も障害者も一緒に参加していること、そのことがとても重要なのです。健常者が楽しいだけではなく、障害者も楽しいだけでもない、両者が楽しめる機会を作ることができた、それが今回の体力測定会の最大の成果だと思います。今回はアクスぺ内という小さな規模の行事ではありましたが、これから、社会でもこういう両者が楽しめる場が増えることを願い、またそういう社会になるように運動していきます。

【文 原田拓人】

【後日談】 参加したほとんどの介助者が次の日に筋肉痛になり、日頃からの運動の大切さを実感したそうです。体力測定会のもうひとつの目的もちゃんと成果がありました。



かっじょうきろく アークスペ活動記録

- 5月^{がつ}19,26日 6月^{にち}2,9,16日：
ピア・カウンセリング集^{しゅうちゅうこうざ} 中講座^{かよ} (通^{けいしき}い形式)
- 6月^{がつ}27~31日：JIL総会^{にち} 参加^{じるそうかい} さんか
- 7月^{がつ}13日：体^{にち}力^{たいりょく}測定会^{そくていかい}
- 7月^{がつ}30,31日：防^{にち}災^{ぼうさい}対^{たい}策^{かい}ワ^{ワーク}ク^クシ^ショ^ョッ^ップ^{第2回}
- 8月^{がつ}16日：コ^{にち}ス^{けんしゅうせい}タ^いリ^いカ^い研^い修^い生^い受^いけ^い入^いれ
- 9月^{がつ}4~6日 10月^か22~25日：
ピア・カウ^{ちようきこうざ}ンセ^{ちようきこうざ}リ^{ちようきこうざ}ン^{ちようきこうざ}グ^{ちようきこうざ}長^{ちようきこうざ}期^{ちようきこうざ}講^{ちようきこうざ}座^{ちようきこうざ}
- 10月^{がつ}29~30日：
自^じ薦^{ぜん}ヘル^{すい}パ^{しん}ー^き推^き進^{よう}協^{かい}会^{けん}ブ^{しゅう}ロ^{さん}ク^か研^{けん}修^{しゅう} 参^{さん}加^か
- 11月^{がつ}9,10日：JIL関^{にち}西^{じる}ブ^{かん}ロ^{さい}ク^がブ^{しゅう}ロ^{さん}ク^か合^が宿^{しゅう} 参^{さん}加^か
- 12月^{がつ}3~5日：全^か国^{ぜん}重^{こく}度^{じゅう}障^ど害^{じょう}者^{がい}相^{しや}談^{そう}支^{だん}援^{しえん}協^{きょう}会^{かい} (全^{ぜん}重^{じゅう}相^{しやう})主^{しゅ}催^{さい}
相^{そう}談^{だん}支^{しえん}援^{けん}研^{しゅう}修^{かい}会^{さん} 参^{さん}加^か
- 12月^{がつ}8日：防^か災^{ぼう}対^{さい}策^{たい}ワ^{かい}ク^{かい}シ^{かい}ョ^{かい}ッ^{かい}プ^{第3回}

自立生活センターアークスペクトラムの会員を大募集!!



正会員 一口 3,000円 (機関紙購読料含む)
団体の事業の提供または利用する個人



賛助会員 一口 3,000円 (機関紙購読料含む)
団体の活動に資金面で協力する個人または団体



読者会員 一口 500円
機関紙購読を希望する個人または団体

私たちの活動を支えてくださる会員を募集しています。
会員になると、機関紙、各種イベントへのお誘いなどいろいろな情報をお届けします。
活動趣旨に賛同のうえ、ご入会ください。

入会をご希望される方は、振替用紙の通信欄にお名前・会員区分をご記入のうえ、会費を以下の口座までお振り込みください。

ゆうちょ銀行振替口座：00930-5-321253

口座名義：自立生活センターアークスペクトラム

※振替用紙の必要な方はアークスペクトラムまでお気軽にお申し付けください。

編集後記

第十号となった「定刊弧光」、桁がひとつ増えました。今号で「サバンナの介助者」ページをリニューアルさせていただきました。掲載するアクスペ介助者を増やし継続してスタッフの日々をお伝えしていきます。次号も引き続き同じ介助者のコメントを載せていきます。

「サバンナの介助者」を見ても思うのですがアクスペの職員も増えてきました。新人ももちろんいます。アクスペも大きくなって来ているなと感じます。私もそれに合わせて成長できていればと思いますが、なかなかできていないなと反省するばかりです。人それぞれの「こうなりたい」理想や憧れの人などがあると思います。それは大切な気持ちですが、それと合わせて自分自身を見つめて理解する事も同じく重要だと今更ながら実感しています。今の私ができることを着実に一歩ずつやっていきたいと思います。まず来年介護福祉士をとれるように頑張ります。来月の筆記試験に向けて猛勉強せねば。
【文：岡本雅博】

《編集》 自立生活センターアークスペクトラム
〒615-0022 京都市右京区西院平町6 三喜ビル1階
電話・ファックス：075-874-7356 メール：cil-arcsp@rg7.so-net.ne.jp
ホームページ：http://arcsp.sakura.ne.jp